

雞肉情勢

令和6年5月13日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

供給

2. 輸入

需要

1. 家計消費

2. 量販・卸

3. 業務・加工筋

在庫

1. 令和6年2月

2. 見通し

相場

1. 令和6年4月動向

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年4月末実施)によると、3月の推計実績は処理羽数64,519千羽(前年比99.5%)、処理重量196.6千t (同99.5%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.3%下方修正、処理重量は1.2%上方修正された。処理重量ベースで前月予測以上の成績となったものの前年実績を下回った。暦上では土・日・祝日が前年よりも1日多かったことや、一部農場で脚弱・鶏病などが発生した影響があったと推察される。

(2) 4月の計画は土・日・祝日が前年から1日減少したことによる処理工場稼働日数の増加等により処理羽数・処理重量が前年を上回る予想となっている。
5月についても処理羽数は土・日・祝日が前年から1日減少したことによる処理工場稼働日数の増加等により前年を上回る予想となっているものの、処理重量は前年を下回る予想となっている。関西・四国・九州を中心に処理重量が前年を下回る見込みとなっているため注視したい。5月8日時点で、10県11例(内肉用鶏1例・肉用種鶏1例)、家さんより高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されている。工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったものの、処理羽数の増加や従業員の高齢化などにより、人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や切身といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。

(1) 財務省4月26日公表の貿易統計によると、令和6年3月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲2.7千tの52.7千tで、国別ではブラジルが前月 ▲4.1千tの35.8千tでタイが+1.3千tの15.9千tとなった。前年同月の実績に対しては+5.2千tとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、ブラジルが高病原性鳥インフルエンザの影響から回復したこと等により輸入量は4月が50.8千t(前年比107.1%)と前年からは増加しているものの、5月は46.5千t(同90.0%)となっており3月から5月にかけて輸入量が減少傾向であることが伺える。国内の輸入品の出回り量により多少動きは変わることが考えられるが輸入品在庫は徐々に減少していくのではないだろうか。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+4.0千tの38.3千tで国別では中国が+2.2千t、タイが+1.7千tとなった。前年同月実績40.6千tとの差は▲2.2千tとなり、前月比は増加したが前年比は下回る結果となり、月間輸入量が40.0千tを下回るのは3ヶ月連続だ。中国・タイともに生産は安定しているが、輸出元の需要の盛り上がりや為替(円安)の影響で価格高騰の状況が続いていることもあり、過去1年スパンで見れば減少傾向が続いている。外食についてはコロナ禍が明けた影響等で昨年よりも回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。

(3) 財務省が4月26日に公表した貿易統計によると、3月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より12.2%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より4.1%上昇した。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が306円/kg(前月比2円高)、タイ産が387円/kg(同円11高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに価格が上がっている状況ではあるものの、国内市場価格は下落基調であるため、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年3月の生鮮肉消費(購入)は数量4,368g(前年比104.0%)、金額6,807円(同107.3%)と、数量・金額ともに前年を上回った。鶏肉は数量1,614g(同107.8%)・金額1,650円(同109.2%)・単価101.3円/100g(前年同月+1.3円)と、数量・金額・単価が前年を上回った。調理食品が金額12,808円(同105.6%)、外食が16,458円(同111.5%)となっている。畜産の購入金額は牛肉・豚肉・鶏肉が前年を上回る結果となり、調理食品・外食も購入金額が前年を上回っていることからインフレが進んだことによる物価高の影響だろう。共働き世帯の増加に伴う調理食品の需要増、外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和での外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復傾向にあると考えられる。学校給食も4月から再開されたため、末端消費の動向に注視したい。

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年3月の食品売上高は全店ベースで前年比106.6%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同106.1%、既存店ベースは同104.8%となった。また、畜産部門の売上高は約1,211億円で全店ベース同105.3%、既存店ベース同103.9%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、価格が安定している豚肉・鶏肉への需要シフトが継続していることに加え、相場に落ち着きが見られるため販売は好調、鶏肉については前年と比較して気温が比較的低かったこともあり鍋関連の需要もあり動きは良かったとコメントがあった。加工肉については値上げの影響もあり販売不振の店舗が多かったとのこと。総菜については行楽関係で動きは良かったものの、人手不足による製造・開発等の対応遅れに苦心している店舗があったとのコメントもあった。

(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年3月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比93.8%の4.5千tとなった。うち国内品は同101.7%の3.7千tと前年を上回り、輸入品については同74.9%の0.8千tと前年を下回った。

(1)(独)農畜産業振興機構(ALIC)の3月末時点推定期末在庫では国産36.9千t(前年比136.3%・前月差+2.0千t)、輸入品129.1千t(同101.8%・同+5.0千t)と合計で166.0千t(同107.8%・同+7.0千t)となった。

(1)(独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、3月の出回り量は国産141.5千t(前年比100.4%・前月差+1.1千t)、輸入品47.7千t(同97.7%・同▲9.4千t)と合計で189.2千t(同111.2%・同▲8.3千t)となった。4月以降の国産在庫については加工向けの仕向肉量が増加しているものの、輸入品在庫が直近では増加しており、前述の輸入量が徐々に減少傾向に向かっていることに加え、外食向けの動きが活発になっていることから業務筋での消化が進むだろう。在庫量は前年を上回る傾向が直近では続くものの、徐々に国産在庫は減少すると予測する。輸入鶏肉の入荷量は為替(円安)の影響や国内在庫が増加していることから輸入量が絞られることが予想される。輸入品在庫は前年差ベースで暫く上回ることが予測されるものの、徐々に在庫は減少していくと予測する。

(1) 令和6年4月の月平均相場は、モモ肉639円/kg(前月差▲22円)・ムネ肉356円/kg(同▲8円)正肉合計で995円/2kgと前月を30円下回り、前年同月を204円下回った。モモ肉相場は月初650円、月末は628円となり(昨年は月初788円、月末782円)、前年の相場を下回った。生産においては、前年に比べ高病原性鳥インフルエンザの発生は抑えられており、全国的には比較的順調に推移した。国内在庫量が増加傾向だが、量販店へ特売を打診するインテも増加したことから国産モモ肉の消化はある程度進んだ。ムネ肉においては、消費者への価格訴求としての需要はあるものの一部安価な輸入鶏肉が流通したことに伴い価格は下落基調だ。正肉と比較して比較的安価な手羽もとは、生鮮品・冷凍品ともに引き合いは強く総菜向けの引き合いも強い。相場は前述にもある通り、月初から月末まで相場は下落基調が続いた。

(1) 5月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を下回る計画であり、寒暖差の影響や鶏病発生による増体悪化も懸念されるため注視したい。全国的に行楽需要が高まっていることから鶏肉の引き合いが強くなることに期待したい。モモ肉においては量販店の特売用として販売している店舗も目立つ。ムネ肉は消費者への価格訴求品としての引き合いが強く、輸入鶏肉についてはタイのEU向け輸出が活発になっている影響もあり、日本国内への輸入量が絞られる可能性がある。モモ肉相場は下げの月平均630円、ムネ肉相場はもちあいの月平均360円と予測する。

(2) 3月の家計調査では、鶏肉だけでなく主な生鮮肉全てが前年の数量・金額・単価を上回り、改めてインフレが進んでいることを実感させられた。消費者の節約志向の働きにより、安価な商品を中心に売れていると思われる。量販店では、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗も一部見られ、今後、高病原性鳥インフルエンザの影響で輸入量が少なかったブラジル産モモ肉が多く国内へ入荷される可能性はあるが、為替(円安)の影響により輸入量が急増することは考えにくい。4月の正肉相場は、全国的に生産量が多かったことや一部安価な国産冷凍品や輸入品が流通したこともあり、正肉計1,000円を下回った。しかし、輸入牛肉・輸入豚肉の価格高騰により鶏肉へ需要のシフトが続いていることに加え、訪日外国人は増加傾向のためインバウンド需要も期待出来る。モモ肉相場が徐々に下がる可能性はあるものの、鶏肉相場は順調に推移していくと思われる。

実績

生産状況

輸入動向

鶏肉の消費動向

在庫状況(推定)

相場(月別)

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年3月 推計実績		R6年4月 計画		R6年5月 計画		R6年6月 計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	64,530	101.2%	65,012	102.6%	65,729	102.0%	60,772	98.1%
処理羽数	743,734	100.9%	64,519	99.5%	64,042	104.2%	64,682	101.7%	60,909	99.2%
処理重量	2,240.5	101.0%	196.6	99.5%	192.9	102.1%	191.6	99.6%	182.4	97.6%

※参考資料:(株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R5年11月	39.2	49.8	78.7	46.6	43.1	108.2	85.8	92.9	92.4	45.7	54.3
R5年12月	51.0	44.3	115.1	44.3	40.4	109.6	95.3	84.7	112.5	53.5	46.5
R6年1月	54.7	44.4	123.3	35.7	34.3	104.1	90.4	78.7	114.9	60.5	39.5
R6年2月	55.4	47.1	117.6	34.3	32.1	107.0	89.7	79.2	113.3	61.7	38.3
R6年3月	52.7	47.5	110.8	38.3	40.6	94.5	91.0	88.1	103.3	57.9	42.1

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R5年10月	1,502	1,574	95.4	1,587	1,534	103.5
R5年11月	1,508	1,495	100.9	1,569	1,505	104.3
R5年12月	1,885	1,729	109.0	1,950	1,854	105.2
R6年1月	1,501	1,491	100.7	1,608	1,559	103.1
R6年2月	1,584	1,402	113.0	1,605	1,475	108.8
R6年3月	1,614	1,497	107.8	1,650	1,511	109.2

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年10月	29.8	25.2	118.0	130.9	127.5	102.7	160.7	152.7	105.2
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4
R5年12月	33.6	24.6	136.1	115.7	124.2	93.1	149.2	148.8	100.3
R6年1月	31.2	24.4	127.5	125.9	125.6	100.2	157.0	150.0	104.7
R6年2月	34.9	25.0	139.6	124.1	128.1	96.9	159.0	153.1	103.9
R6年3月	36.9	27.0	136.3	129.1	126.9	101.8	166.0	153.9	107.8

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年1月	701	805	87.1	377	422	89.3	1,078	1,227	87.9
R6年2月	682	800	85.3	369	414	89.1	1,051	1,214	86.6
R6年3月	661	799	82.7	364	411	88.6	1,025	1,210	84.7
R6年4月	639	789	81.0	356	410	86.8	995	1,199	83.0
R6年5月	(630)	774	81.4	(360)	408	88.2	(990)	1,182	83.8
R6年6月	(620)	745	83.2	(360)	405	88.9	(980)	1,150	85.2

※()は見通し